

# かずさの博物誌

## ヒヨドリの四季

～はなすい～

文・写真／成田篤彦

2016.6.20

ヒヨドリは上総でも山林や農耕地や市街地で一年中普通に見られる鳥です。名前は知らなくても多くの方が見ているはずで。

**冬** 農家の庭先に熟した柿がいっぱいなっていました。農家の方が「ヒヨドリは可愛い小鳥のスズメやメジロを追いかけてしまうの。ちょっと乱暴な鳥だわ」といいました。

「鶇の猛々しさに雀去る 北島洋子（松田ひろむ編集08「ザ・俳句十万人歳時記」第三書館）」とあるように、ヒヨドリは果実に集まってきた、ツグミやアカハラなどの鳥も追い払ってしまいます。意外にたくましいのです。また、畑の白菜やキャベツを食べ農家の方を困らせます。

**春** 梅や桜が咲くと花の蜜を吸いまくり、くちばしに花粉を付けたまま、「ぴーよ、ぴーよ」と鳴いて飛び去ります。

この様子を詠ったのが、「花吸うと鳴く鶇のひよひよと 菅沼曲翠



▲柿とヒヨドリ 冬=2014年12月13日 木更津市

（風信子08『俳句と詩歌であるく鳥のくに』文一総合出版）」の句だと思えます。ヒヨドリは花の蜜を好んで吸いに來るので、はなすいの異名があります。

**夏** テレビのアンテナに風で巻き付いたポリ袋を飛びながら引きちぎり運んでいました。巣材にするのでしよう。この鳥は巣の内側にポリ袋を使っていることが多いのです。

また、セミヤガなどの虫を飛びながら捕まえる姿をよく見かけます。

**秋** 九月初めに木陰で巣立ったヒナに虫を与えている姿を見ることがあります（写真）。



▲ヒヨドリのヒナ 秋 親がバッタを与えている =2011年9月3日 木更津市

九月末には北方から大挙して上総に飛来してきます。

「鶇わたる空に起伏のあるごとく 仲村明子（松田08前出）」の句があります。これは群が波を描いて飛ぶので、その様子を「空に起伏があるように」と表現したのでしよう。

富津岬では三〜四百羽の群れで、天敵のハヤブサをさけるため、海面すれすれに飛び、渡っていきます。

秋が深まると「鶇の大きな口で鳴



▲桜の花とヒヨドリ 春=2007年4月5日 木更津市

きにけり 星野立子（松田ひろむ編集08前出）」の句のように、市街地で騒々しく鳴く声が聞かれます。

多くの句に詠いこまれたヒヨドリはのどかな鳥ですが、一方では騒々しく、庭の赤い実や畑の野菜を食べる害鳥の一面も持っています。

それはさておき、ヒヨドリは季節によっていろいろな姿を楽しませてくれる、最も身近な野鳥の一つです。



▲海を渡るヒヨドリ 秋=2008年10月10日 富津市



▲ガを捕まえたヒヨドリ 夏 =2013年7月9日 木更津市

memo

ヒヨドリ(鶇)

ヒヨドリ科

全長二十五センチメートル、朝鮮半島南部、台湾などに分布。多くは留鳥だが、北海道や山地のものは暖地に移動する。秋の移動では十数羽から数百羽の移動群が見られる。虫、果実、花蜜を食べる。特に赤い実を好む。秋の季語。